

# JUN通信

高木 純の市政だより

## 川島町民の力を結集して

# 川島中と川島・学島小を守ろう

学校再編計画案の白紙撤回求めて

川島町の市民と市議で要望書提出

### 「吉野川市学校再編計画」の見直しに関する要望書（抜粋）

この度「吉野川市学校再編計画策定委員会」から吉野川市教育委員会に提出された、「吉野川市学校再編計画」の答申では、「市立川島中と山川中を現山川中に統合し、川島小と学島小を現市立川島中に統合する」となっています。

その理由としては、「中学校適正規模を1学級30人程度、1学年あたりの学級数は、3学級以上」とし、それを基に適正配置を検討すると、市立川島中学校は山川中学校に統合するとなっています。

しかし、川島から山川中までの通学距離は一番近い学地区でも5キロメートルで、山田地区だと10キロメートル以上になります。同じ答申の中には「中学校の通学距離の範囲はおおむね5キロメートルとする」としているにもかかわらず、川島の中学生だけが遠距離通学になってしまいます。

また、川島中学校は地域の強い要望で、合併後の平成17年度に建設されたものであり、小学校が移るとなると教室等が不足し増設を行わなければなりません。15年先を見ても今とさほど、変わらぬ生徒数で、1学年2学級で適切な学校運営ができると思われるのに、適正規模だけを重視し、このような計画を立てたことに対して、市立川島中学校校区住民は、断固納得することはできません。

小中学校の再編について、昭和48年の文科省の通達に次のように書かれています。

「学校統合の意義及び学校の適正規模については、さきの通達に示しているところであるが、学校規模を重視するあまり無理な学校統合を行い、地域住民等との間に紛争を生じたり、通学上著しい困難を招いたりすることは避けなければならない」

以上の理由から、市立川島中学校の歴史や地域との関わり・伝統を考慮し、今回の「吉野川市学校再編計画」の答申にある、市立川島中学校の山川中学校への統合の白紙撤回を強く要望致します。

「地域から学校を奪わないで！」

教育委員会に厳しい意見提出

学校再編計画策定委員会が、市の教育委員会に答申した再編計画案の白紙撤回を求めるため、川島町各種団体の代表一〇人と川島町在住の五人の市議会議員が、二月一四日に市の教育委員会に要望書を提出しました。

この要望書の提出は、五人の市議が、川島町の自治会連合会、婦人会、老人会の代表、川島中、川島小、学島小のPTA役員に呼びかけて行われたものです。

市議会議員

高木 純



この日にあわせ、PTA関係者で集められた白紙撤回を求める約一五〇〇名の署名も提出されています。

要望書の提出と同時に、川島町から中学校をなくしたり、小学校を一枚にする計画案に対して、各種団体の代表から次々と厳しい意見が教育委員会に伝えられました。最後に辻内教育長職務代行者は「住民の猛反対を押し切ることができるものではない」と答えています。

要望に参加した各種団体代表一〇人と五人の市議は、計画案の白紙撤回にむけて引き続き団結することを確認し、必要なら、さらに大きな川島町民の力を結集して、市立川島中や川島、学島の両小学校を守ることを誓い合いました。



要望書を手渡す村松自治会連合会会長